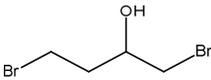
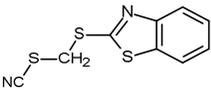
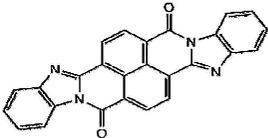


(1) 新たに指針に基づく措置を要請する物質（変異原性が認められた既存化学物質）

化審法・安衛法 官報公示整理番号	CAS No.	名 称	構造式等	常温の性状等（固体、液 体、気体）	用途	変異原性試験結果の概要 ※1	出典
2-2002	19398-47-1	1,4-ジブロモブタン-2-オール		液体 融点：- 沸点：- 蒸気圧：-	-	Ames試験最大比活性値： $2.6 \times 10^3$ Rev./mg	・厚生労働省
5-3424	21564-17-0	2-[(チオシアナトメチル)スルファニリ ル]-1,3-ベンゾチアゾール		液体 融点：<-10℃ 沸点：191℃ 蒸気圧： $4.2 \times 10^{-5}$ Pa (25℃)	殺菌剤（失効農 薬）	Ames試験最大比活性値： $3.0 \times 10^4$ Rev./mg	・厚生労働省 ・化学工業日報社 ・IPCS, 1997 ・U. S. EPA, 2006b ・SRC: MpbpWin, 2005

(2) これまでに指針に基づく措置を要請した物質のうち、指針の対象から除外する物質

化審法・安衛法 官報公示整理番号	CAS No.	名 称	構造式等	常温の性状等（固体、液 体、気体）	用途	変異原性試験結果の概要 ※1	出典
5-2201 5-3205	4424-06-0	バット オレンジー7		融点：- 沸点：927℃ 蒸気圧：-	顔料	Ames試験（1983）最大比活性値： $1.2 \times 10^3$ Rev./mg Ames試験最（2017）：陰性 Ames試験最（2005）：陰性 染色体異常試験（2015）：陰性 遺伝子突然変異試験（2015）：陰性	NTPDB 012972 (CEBS) ENVIRON. MOL. MUTAGEN. 11 (SUPPL. 12) : 1-158, 1988  (非公表資料)  EUドシエ公開資料 (2017)

※1 各変異原性試験の判断基準

- 微生物を用いる変異原性試験（Ames試験）において強い変異原性が認められるとする比活性値は、概ね1,000 (revertants/mg) 以上
- ほ乳類培養細胞を用いる染色体異常試験において強い染色体異常誘発性を示すと評価する濃度は、 $D_{20}$ 値が概ね0.01 (mg/ml) 以下
- マウスリンフォーマTK試験では、いずれかの試験系で突然変異頻度が陰性対照の4倍、又は陰性対照より $400 \times 10^{-6}$ を超えて増加している場合、強い陽性と判断
- in vivo 小核試験で陽性が出た場合には、強い陽性と判断